

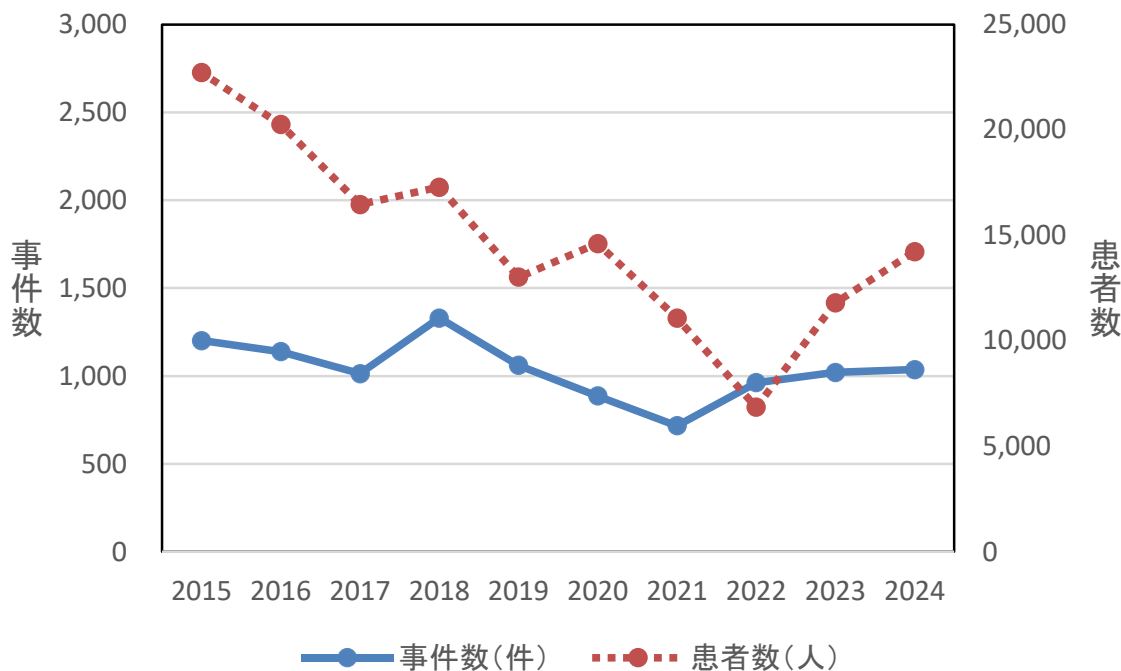


1. 全国食中毒の事件数と患者数の推移

2015年～2024年の全国における食中毒の発生状況(報告数)をみますと、2024年は2023年に比べて事件数、患者数とも増加しました。新型コロナウイルスの5類移行後は、ノロウイルスによる事件数、患者数が大幅に増加しました。

2024年の死者数3名は、いずれも植物性自然毒(イヌサフラン2名、キノコ1名)を原因とするものでした。

最近10年間の全国の食中毒の事件数と患者数の推移



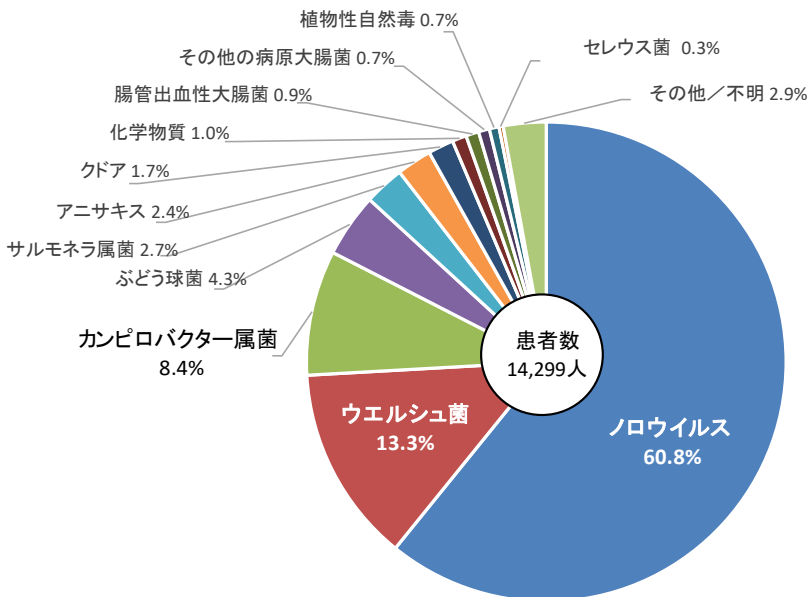
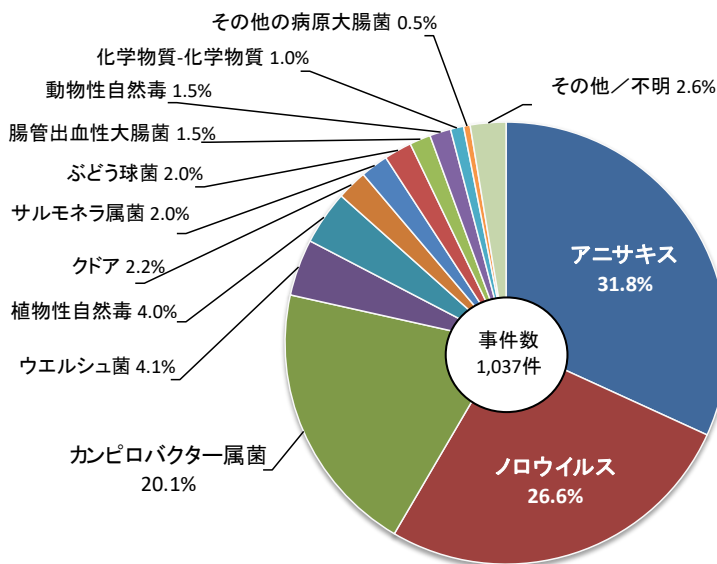
	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
事件数(件)	1,202	1,139	1,014	1,330	1,061	887	717	962	1,021	1,037
患者数(人)	22,718	20,252	16,464	17,282	13,018	14,613	11,080	6,856	11,803	14,229
死者数(人)	6	14	3	3	3	3	2	5	4	3



2. 病因物質別の食中毒発生状況(2024年)

2024年の病因物質別の食中毒発生状況をみますと、事件数は、2023年に続いて寄生虫のアニサキスがもっとも多く(380件、31.8%)、ノロウイルス(276件、26.6%)、カンピロバクター属菌(208件、20.1%)で全体の78.5%を占めていますが、ノロウイルスによる事件数が大幅に増加しました。

2024年の患者数は、ノロウイルス(8,656人、60.8%)ともっとも多く、ウエルシュ菌(1,889人、13.3%)、カンピロバクター属菌(1,199人、8.4%)で全体の82.5%を占めていますが、こちらもノロウイルスによる患者数が大幅に増加しました。



3. 最近3年間の病因物質別の食中毒発生件数の推移

病因物質別食中毒発生件数(事件数)

病因物質	2022年		2023年		2024年		3年合計
	事件数	構成比	事件数	構成比	事件数	構成比	
アニサキス	566	58.8%	432	42.3%	330	31.8%	1,328
カンピロバクター属菌	185	19.2%	211	20.7%	208	20.1%	604
ノロウイルス	63	6.5%	163	16.0%	276	26.6%	502
植物性自然毒	34	3.5%	44	4.3%	41	4.0%	119
ウェルシュ菌	22	2.3%	28	2.7%	43	4.1%	93
サルモネラ属菌	22	2.3%	25	2.4%	21	2.0%	68
ブドウ球菌	15	1.6%	20	2.0%	21	2.0%	56
動物性自然毒	16	1.7%	13	1.3%	16	1.5%	45
クドア	11	1.1%	22	2.2%	23	2.2%	56
腸管出血性大腸菌(VT産生)	8	0.8%	19	1.9%	16	1.5%	43
化学物質	2	0.2%	8	0.8%	10	1.0%	20
その他の病原大腸菌	2	0.2%	3	0.3%	5	0.5%	10
セレウス菌	3	0.3%	2	0.2%	2	0.2%	7
腸炎ビブリオ	0	0.0%	2	0.2%	1	0.1%	3
その他/不明	13	1.4%	29	2.8%	24	2.3%	66
計	962	100.0%	1021	100.0%	1037	100.0%	3,020

病因物質別食中毒発生件数(患者数)

病因物質	2022年		2023年		2024年		3年合計
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比	
ノロウイルス	2,175	31.7%	5,502	46.6%	8,656	60.8%	16,333
ウェルシュ菌	1,467	21.4%	1,097	9.3%	1,889	13.3%	4,453
カンピロバクター属菌	822	12.0%	2,089	17.7%	1,199	8.4%	4,110
その他の病原大腸菌	200	2.9%	116	1.0%	105	0.7%	421
サルモネラ属菌	698	10.2%	655	5.5%	384	2.7%	1,737
アニサキス	578	8.4%	441	3.7%	337	2.4%	1,356
ブドウ球菌	231	3.4%	258	2.2%	610	4.3%	1,099
腸管出血性大腸菌(VT産生)	78	1.1%	265	2.2%	124	0.9%	467
クドア	91	1.3%	246	2.1%	245	1.7%	582
化学物質	148	2.2%	93	0.8%	137	1.0%	378
植物性自然毒	151	2.2%	114	1.0%	93	0.7%	358
セレウス菌	48	0.7%	11	0.1%	40	0.3%	99
動物性自然毒	21	0.3%	15	0.1%	18	0.1%	54
腸炎ビブリオ	0	0.0%	9	0.1%	1	0.0%	10
その他/不明	148	2.2%	892	7.6%	391	2.7%	1,431
計	6,856	100.0%	11,803	100.0%	14,229	100.0%	32,888

4. 原因施設別の食中毒発生病数(2024年)

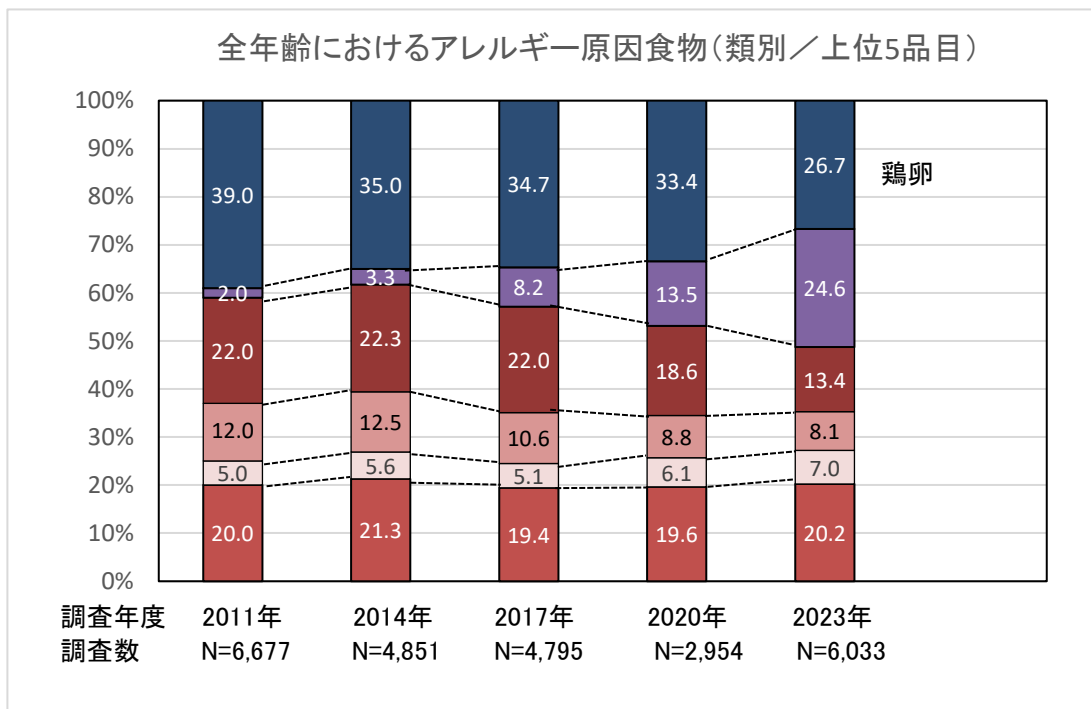
原因施設	事件数	構成割合	原因施設 が判明した ものの構成 割合	患者数	構成割合	原因施設 が判明した ものの構成 割合	一事件あ たりの患 者数	死者数
飲食店	548	64.9%	64.9%	8,656	62.8%	62.8%	15.8	-
家庭	108	12.8%	12.8%	168	1.2%	1.2%	1.6	2
事業場	46	5.4%	5.4%	1,310	9.5%	9.5%	28.5	1
販売店	42	5.0%	5.0%	56	0.4%	0.4%	1.3	-
仕出屋	31	3.7%	3.7%	1,268	9.2%	9.2%	40.9	-
旅館	28	3.3%	3.3%	855	6.2%	6.2%	30.5	-
製造所	12	1.4%	1.4%	726	5.3%	5.3%	60.5	-
学校	11	1.3%	1.3%	366	2.7%	2.7%	33.3	-
病院	6	0.7%	0.7%	200	1.5%	1.5%	33.3	-
その他	13	1.5%	1.5%	184	1.3%	1.3%	14.2	-
計	845	100.0%	100.0%	13,789	100.0%	100.0%	16.3	3

※本資料は厚生労働省ホームページに掲載されている2025年4月12日時点の食中毒統計資料のデータを編集したものです。元となるデータは次のURLをご参照ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/04.html

5. 食物アレルギーに関する調査報告

令和6年度の「食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業報告書(消費者庁)」では、即時型食物アレルギーの原因食物は鶏卵26.7%、木の実類24.6%、牛乳13.4%で、木の実類を原因とする報告例が大幅に増加しました。



木の実類の内訳は、クルミ61.7%、カシューナッツ18.8%、マカダミアナッツ4.6%、ピスタチオ3.4%、アーモンド3.1%でした。

木の実類内訳

種類	n	全体における%
クルミ	916	61.7%
カシューナッツ	279	18.8%
マカダミアナッツ	69	4.6%
ピスタチオ	50	3.4%
アーモンド	46	3.1%
ペカンナッツ	35	2.4%
ヘーゼルナッツ	27	1.8%
その他	62	4.2%
木の実類合計	1484	100.0%

年齢別の症例数は、0歳が全体の23.5%を占め、1歳が12.8%、2歳が9.55%で、2歳までで45.8%を占め、6歳までで74.4%を占めています。

年齢群別の5%以上を占める原因食物は、0歳群では鶏卵、牛乳、小麦で95.6%を占めており順位に変化はありませんが、1・2歳群、3-6歳群、7-17歳群ではクルミが2位、1位、1位、1・2歳群、3-6歳群ではイクラが4位、3位となっております。

年齢別原因食物(粗集計)

年齢群	0歳	1・2歳	3-6歳	7-17歳	≥18歳
調査数	1,418	1,347	1,722	1,228	318
1	鶏卵 60.6%	鶏卵 60.6%	クルミ 28.3%	クルミ 17.2%	小麦 21.1%
2	牛乳 21.4%	クルミ 14.6%	落花生 12.0%	牛乳 13.6%	エビ 16.7%
3	小麦 13.6%	牛乳 12.9%	イクラ 9.4%	鶏卵 10.7%	大豆 8.2%
4		イクラ 8.8%	鶏卵 8.9%	落花生 9.9%	
5		落花生 5.7%	牛乳 8.6%	小麦 8.1%	
6		小麦 5.2%	カシューナッツ 8.4%	エビ 6.9%	
7				カシューナッツ 5.2%	
小計	95.6%	81.0%	75.7%	71.8%	45.9%

※本資料は消費者庁のホームページに掲載されている食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業報告書のデータを編集したものです。元となるデータは次のURLをご参照ください。

https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/food_sanitation/allergy/#research